

多様な人材が活躍するための環境整備

情報サービス業は今、経営環境の変化に対応するため、IT 技術だけではなく経済動向や社会動向を捉えた新たなビジネスモデルを開拓し、顧客や社会に IT 活用による価値を創造することが必要となっています。

そのためには、従来の IT を中心としたキャリア形成から金融や流通など社会の様々な分野における業務知識を習得し、IT と業務の融合を図ることが重要になります。さらには、IT 活用による価値を創造できる人材を見出し、彼らが活躍できる環境を整えることが課題となっています。

情報サービス業の最大の経営資源は人材です。独創的なソフトウェアを開発するにも、大規模なプロジェクトをまとめるにも、一人ひとりの英知の結集が企業の力となります。そこで、業界各社では、世界に通用する優秀な人材を育て、多様な働き方により、個人の能力を最大限に引き出し、「価値創造」を可能とする経営戦略が必要になっています。

そのためには、個々人の時間と生活を尊重し、個人と企業と社会が調和し、ともに成長できるワーク・ライフ・バランスの実現が鍵となっています。

情報サービス業におけるワーク・ライフ・バランス実現の意義

情報サービス業にとってワーク・ライフ・バランスを実現するためには、働き方(ワークスタイル)を見直し、長年の課題でもある長時間労働を抑制し、年次有給休暇の取得促進を効果的に進めることが必要になります。

ワーク・ライフ・バランスの推進は、ダイバーシティ⁽⁴⁾を促進し、柔軟性の確保、多様な人材の活躍、ひいては企業の生産性を向上させることに結びつきます。

グローバル化の進む情報サービス業において、ワーク・ライフ・バランスを実現することは、優秀な IT エンジニアを世界中から獲得することにつながります。

そして多様な人材が、多様な働き方により、一人ひとりの能力や経験を活かすことは、ビジネスを成功させる重要な鍵となっています。



働き方の見直しにより、企業の生産性、収益性の向上や人材活用など、企業にとって大きなメリットが期待されます。また、労働者にとっても、ワーク・ライフ・バランスの実現により仕事や自己のキャリアに対する選択肢が広がり、より豊かな生活設計が可能となります。

⁽⁴⁾ ダイバーシティ：多様な人材・働き方を活用すること